



梓川の
世帯数・人口

世帯数	4,841 戸
人口	12,207 人
男	6,058 人
女	6,149 人

(令和6年.3.1現在)



信州梓川賞展

2月3日(土)から3月3日(日)に、梓川流域の自然や文化、行事を題材とした絵画の公募展「第23回信州梓川賞展」が、梓川アカデミア館で開催されました。

一般の部では69点、小中学生の部では320点が展示され、最高賞である梓川賞には、藤森 憲雄さん(安曇野市豊科)の「残照 産卵床造り」が選ばれました。倭橋の上流で見た、太陽が沈むなかアカウオなどの産卵床を整備する人々を描いた作品です。

作者の藤森さんは、「波の流れや、岩一つ一つにあたる光を表現するのに苦労した。見たときにその場の空気感、川の流れて感じてもらえたら嬉しい」と作品について語っていました。

審査員からは、「自然の中で働く人の姿が、透明水彩ならでは、にじみやボカシを駆使した淡いトーンで描かれて

おり、神聖な印象を受ける作品」と講評がありました。今後もこの梓川賞展が続いていき、梓川地域の豊かな自然や風景が多くの人に描かれていくことを願います。

▲梓川賞を受賞した藤森さん



美味しいものを満喫

下立田公民館バス旅行

1月28日(日)、諏訪へのバス旅行が開催され、小さな子どもから年配の方まで、25人の参加者がバス旅行を楽しみました。

今回のバス旅行では、諏訪

大社上社本宮の見学、諏訪湖近くでのいちご狩り、くらすわでの昼食、Suwaガラスの里など、歴史と食とショッピングを楽しみました。

古くからの自然信仰の姿を残す諏訪神社の総本社上社本宮は、境内に重要文化財がいくつもあり、見ごたえがあります。中でも神楽殿は直径が180cmもある大きな太鼓があり圧巻でした。

いちご狩りでは、ハウスの中に入ると真っ赤で美味しそうないちごが目に入ります。摘みたていちごの味はみずみずしさと甘さが格別。「いちご狩り楽しい!」「沢山食べた!」「甘くておいしい」などの感想が飛び交い、いちご狩りを満喫していました。

コロナ禍を経て久しぶりに行われた公民館旅行ということもあり、皆さん和気あいあいと楽しく過ごすことができました。これからも色々な世代の方が楽しく交流できるような公民館行事が開催できたらと思っています。

▲諏訪湖いちご園のいちご狩り



子どもが主役の三九郎

1月7日(日)、北大妻第2・第3・第4町会で三九郎が行われました。

北大妻では子ども数の減少や場所の問題から、数年前から3町会合同で実施しており、住民の方が松飾り、だるま、藁などを持ち寄って来てくれます。

毎年三九郎は大人が作るのを子どもが手伝っていました。しかし、今年から役員の提案で、役員と保護者は正月飾りの金属やだるまのへつたを外すといった裏方に回り、子どもたちが大人の手を借りながら三九郎を組み立てていきます。そして午前中には子ども

たちの感性で素晴らしい三九郎が二つ出来上がりました。午後1時半には地元の方も大勢集まり、三九郎に火がつけられました。無病息災、家内安全を祈り、大きな炎は青空へと舞い上がりました。火勢が落ち着くと、残り火の熱さで、子どもも大人も顔を赤くしながら藪玉団子をあぶりまします。どの顔にも笑顔が見られ、楽しい正月行事となりました。



▶子どもたちがつくる三九郎



福祉のつどい

梓川地区福祉のつどいが1月27日(土)に梓川公民館で開催されました。

今回の福祉のつどいでは、障がいを抱えながらも県内外で演奏活動を行う『楽団ケ・セラ』の皆さんによるコンサートが開催され、大勢の参加者で賑わいました。

楽団ケ・セラは「音楽で飯を食う」をコンセプトに平成14年から活動を続けており、令和5年には松本市文化芸術功労賞を受賞するなど、高い評価を受けています。

メンバーは「お客さんに楽しんでもらえるような、楽しいコンサートにしたい」「笑顔で楽しい演奏を届けたい」と意気込みを語ってくれました。

コンサートでは「手のひらを太陽に」「Y.M.C.A」など13曲が演奏され、観客も手拍子しながら一体となって楽しんでいました。

福祉のつどいを主催した梓川地区社会福祉協議会の岩原会長は「音楽を仕事にして食べていくというのはすごい事。素晴らしい技術を持っていて、とても感動した」とコンサートの熱気そのままの感想を話していました。



▲Y. M. C. A



▲手のひらを太陽に

また、5月18日にはキッセイ文化ホールで定期演奏会が行われます。興味のある方はぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

発酵とはロマン

上嶋 大規さん

北大妻の上嶋醤油醸造店は明治36年創業で、大規さんはその4代目です。

大学で醸造を学び、28歳の時に父から仕事を任せられました。

昔ながらの醸造について、「醤油は日本古来の発酵食品で、微生物が醸し出す不思議で複雑な調味料です。微生物の働きを攪拌などで上手く手助けをしますが、木桶による発酵熟成には気候などが大きく影響し、1年半前後の時間と労力が必要

花見町内公民館行事

花見公民館では、本年度9つの行事が計画されていますが、実施された行事は囲碁ボール大会、公民館日より発行の2つのみでした。

毎年恒例の【町会バス旅行】が、コロナ禍の先の見えない状況下で、今年も中止となりました。この会議の際に「地区の住民はこれを望んでいるのか?」「ほとんどの住民が仕方なく参加しており、一部の住民だけの行事と化している」との意見が出され、これを機

です。学生のころ、先生に『発酵とはロマンである』と教わりました。今は少しずつその言葉が分かり始めました」と話していました。

現在、家族経営で、大規さん、奥様、番犬コロン、そしてお父様89歳、お母様86歳も現役で頑張っています。「木桶や設備の維持、また微生物と対話が出来るまで数年はかかる職人の後継者など課題はありますが、これからも地元の農家の方が丹精込めて育てた大豆や小麦を、微生物の手を借りて魅力的な醤油にして、お客様にお届けしたい」と話していました。

にこの行事を続けるべきか住民アンケートをとるなどして検討し、来年度以降も中止することとなりました。

ほかの行事もコロナ感染状況から開催が危ぶまれ、年5回の役員会議は、これからの公民館活動をもっと住民のニーズに応えた楽しい活動に昇華するために話し合いをすることに変更しました。

これからも花見公民館は住民の皆様から広くアイデアを募るなどして、住民に寄り添った交流の場でありつづけたしたいと思います。



▲上嶋 大規さん

これからも地元の方たちに愛される、お醤油造りを楽しみに行きたいと思えます。



▶公民館での話し合い